

第2章

知的障害と視覚障害や聴覚障害を併せ有する幼児・児童・生徒の指導内容・方法の充実事業

～ 目 次 ～

- 事業概要.....18
- 組織的・計画的な連携に向けて.....22
- 複数の障害種の専門性を生かした指導改善シートの活用24
- 実践事例編
 - 知的障害と視覚障害を併せ有する児童・生徒等を対象とした事例28
 - 知的障害と聴覚障害を併せ有する児童・生徒等を対象とした事例36
- 複数の障害種の専門性を生かした指導改善シート（様式例）40

知的障害と視覚障害や聴覚障害を併せ有する

視覚障害特別支援学校や聴覚障害特別支援学校に在籍する知的障害を併せ有する幼児・児童・法の充実が求められています。これまで、複数の障害教育部門を併置する特別支援学校においてた。本事業では、これまでの成果を踏まえ、併置校の各教育部門間や異なる障害種の特別支援学活用する取組を推進させるとともに、連携のポイントや効果的な指導内容・方法について分析・しながら、それぞれの教育部門が保有する指導内容・方法の特色を組み合わせ、複数の障害を併

視覚障害教育における専門性

- 空間や時間の概念の形成に関する指導
- 視覚活用環境の整備
- 触察教材の開発 等



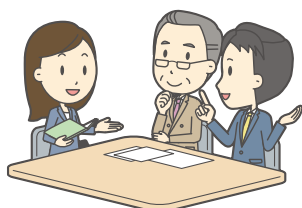
各障害種の
相互に
指導内容・方

全ての児童・



複数の障害種
の専門性を + α

併置校の教育部門間
の連携



教育部門間が連携し、児童・生徒等の実態に応じた指導について、年間を通して計画的に相談し合うことができることは、併置校の大きな利点です。実際に指導場面を参観し、直接相談することで、他の障害種の視点を踏まえた授業改善を進めることができました。

知的障害教育に



- 実際の段階
- 情報の
- 目標や

幼児・児童・生徒の指導内容・方法の充実事業

生徒（以下、「複数の障害を併せ有する児童・生徒等」という。）は増加しており、指導内容・方法は、指導内容・方法を両部門で共有し、併置校としての特色を生かした教育を展開してきまし校間が連携を図り、視覚障害、聴覚障害、知的障害それぞれの専門性や特色を相互に共有し、整理しました。本書を参考に、各学校では、主たる障害に応じた指導の専門性を最大限に発揮せ有する児童・生徒等の実態に応じた指導の充実を図っていきましょう。

専門性を
活用し、
法の充実を！

生徒等のために



聴覚障害教育における専門性



- 言語概念の形成に関する指導
- 視覚教材の活用
- 言語環境の精選 等

複数の障害種
の専門性を + α

における専門性

生活場面に即した
指導
効果的な呈示
活動の明確化 等

メールやWeb会議システム、授業を撮影した動画等を活用して効率的に連携を図ることができました。連携を通して、教員が、他の障害種の指導に関する視点を学び、それらを生かした指導について考えるようになるなど、教員の専門性の向上に役立ちました。

異なる障害種の特別
支援学校間の連携



知的障害と視覚障害や聴覚障害を併せ有する

こんな悩みはありませんか…?

【悩み1】点字を両手で丁寧に触る練習をしたいが、座位が安定せず、姿勢が崩れてしまう。どうしたらよいのだろう…。



視覚障害特別支援学校の教員



【悩み2】画数が多い漢字を書くと、間違いが多くなる。見え方に課題があるのではないだろうか…。

知的障害特別支援学校の教員

【悩み3】視覚教材を活用しているが、最後まで説明を聞いて、課題に取り組むことが難しいのはどうしてだろう…。



聴覚障害特別支援学校の教員

複数の障害種
の専門性を $+$ α

- 各教育部門や他の障害種の特別支援学校の人材を活用しましょう。
- 複数の障害種の視点を生かし、指導内容・方法の充実を図りましょう。

【悩み1に対して】座位が安定しやすいイスを準備し、正しい姿勢を保ち、両手が使いやすい環境を整えることから始めてみましょう。



知的障害特別支援学校の教員



【悩み2に対して】漢字の部分ごとに色分けをして示すことで、漢字の構造が見て分かりやすくなります。



視覚障害特別支援学校の教員

【悩み3に対して】児童が理解できる伝え方を工夫しましょう。伝える内容を精選することも大切です。



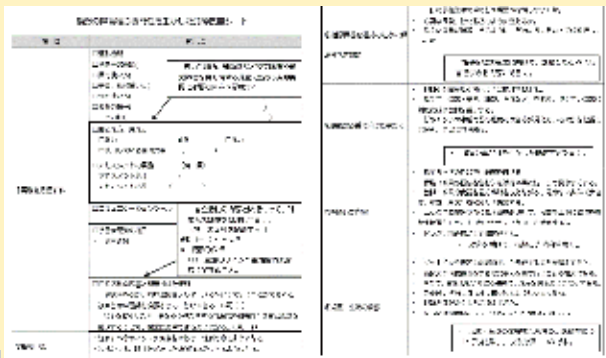
知的障害特別支援学校の教員

幼児・児童・生徒の指導内容・方法の充実事業

効果的な連携
に向けて

授業改善シートを 活用した連携

- 年間計画に沿って、組織的・計画的に連携を進めましょう。
(P22・23 ページ)
- 「複数の障害種の専門性を生かした指導改善シート」を活用し、効率的に連携を図りましょう。
(P24・25 ページ)



複数の障害種の専門性を生かした指導改善シート



実践事例

- 知的障害と視覚障害を併せ有する児童・生徒等を対象とした事例 (28～35 ページ)

【事例1】 指示の明確化と姿勢の保持

【事例2】 活動内容の明確化

【事例3】 視覚的な環境整備

【事例4】 字形の理解、目の使い方



【事例2】
予定を分かりやすく示して理解を促す工夫

- 知的障害と聴覚障害を併せ有する児童・生徒等を対象とした事例 (36～39 ページ)

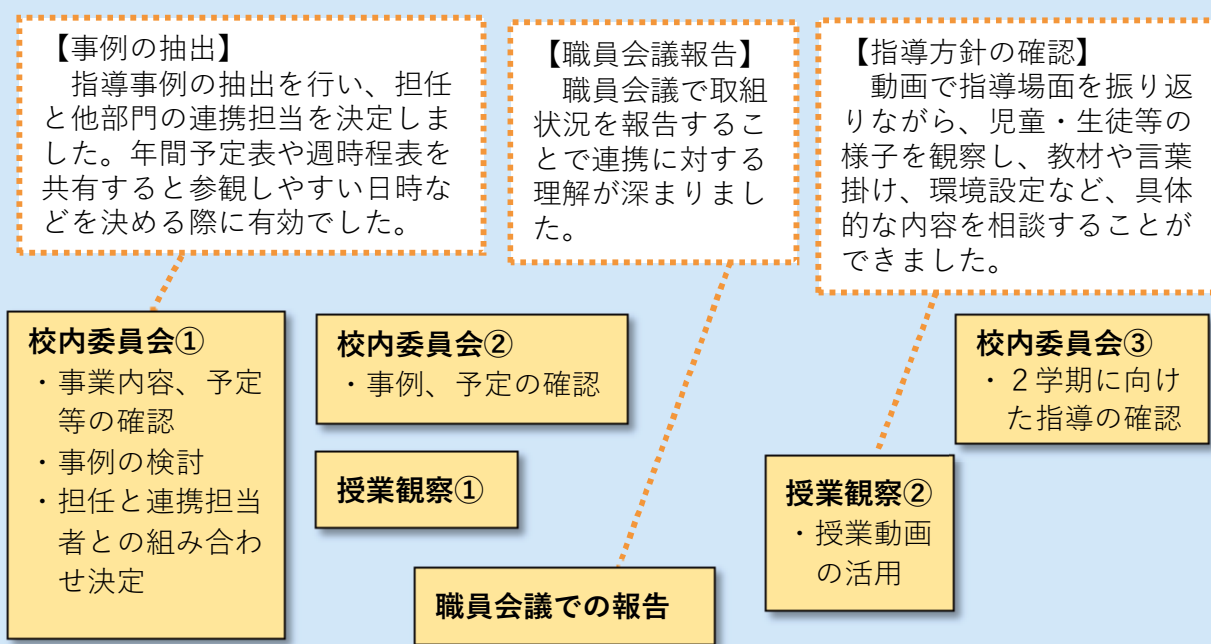
【事例5】 気持ちの表出方法や教材の呈示方法の工夫

【事例6】 教材の呈示方法の工夫

組織的・計画的な連携に向けて～

複数の障害種の視点を生かした連携を進める際は、年度当初におおまかな年間計画を作成し、例えば、各教育部門の指導教諭等で構成された校内委員会を設置し、事例の収集や指導で報告し、同様の課題がある児童・生徒等の指導へ生かす視点やその成果についての周知の特別支援学校間の連携では、実際に対面して相談する機会が限られる場合が想定されるため等を活用した連絡・調整や、授業場面の動画を活用した事例検討会の実施など、効果的・

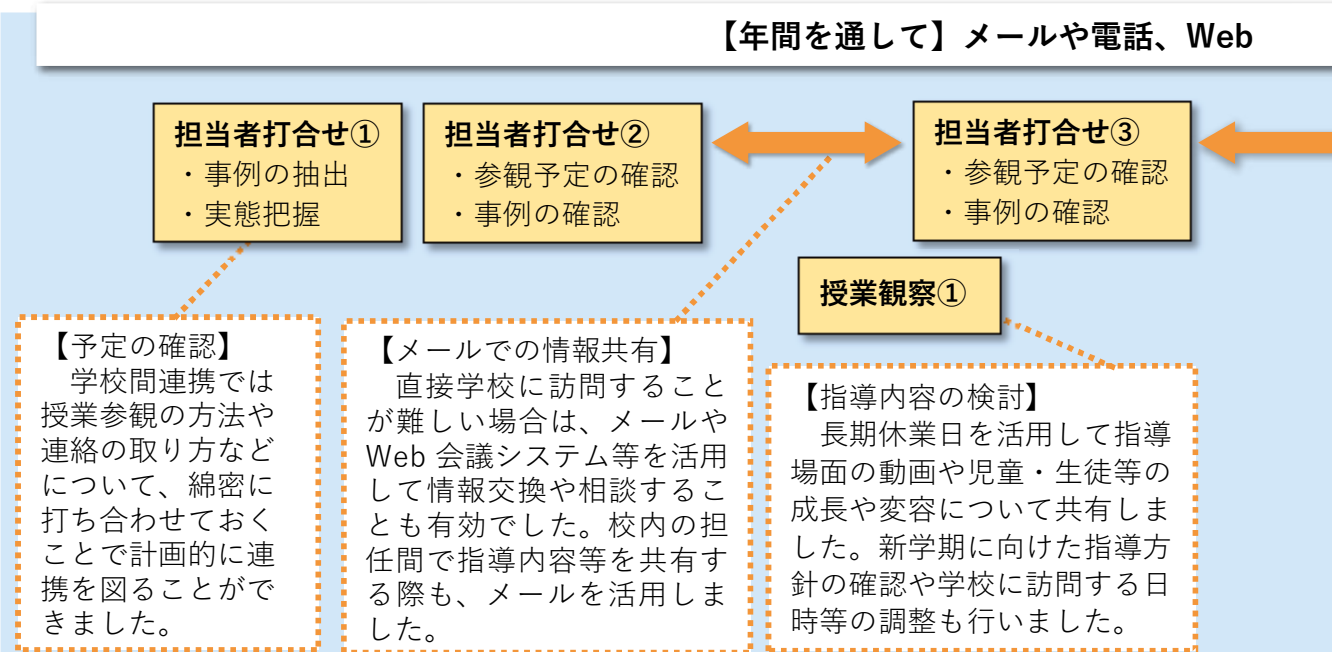
併置校の教育部門間の連携例



1学期

夏季休業中

異なる障害種の学校間の連携例



教育部門間・学校間の連携モデル～

し、組織的・計画的に連携を進めることが重要です。併置校の教育部門間で連携する場合に状況の把握、事例検討会の企画などを行うことが考えられます。また、定期的に校内研修会等など、学校全体で教員の専門性向上に向けた取組を推進することが大切です。異なる障害種別、特別支援教育コーディネーター等が中心となり、日常的にメールや電話、Web会議システム効率的に連携を進める工夫が大切です。



【指導の振り返りと次年度への引継ぎ】

年間の指導を振り返り、実践した内容を項目ごとに分類して整理しました。他の事例にも生かすことができる手だてや引き続き経過を見ていく事例について検討し、来年度の予定を確認しました。

校内委員会④

- ・指導生徒の成長や変容の確認
- ・指導の評価や再検討

校内委員会⑤

- ・次年度事例の抽出
- ・事業の進め方の検討

授業観察③

学校運営連絡協議会での報告

授業観察④

- ・授業動画の分析

授業観察⑤

2学期

冬季休業中

3学期

会議システム等を活用した連絡・調整

担当者打合せ④

- ・参観予定の確認
- ・事例の確認

担当者打合せ⑤

- ・次年度ケースの抽出
- ・事業の進め方の検討

授業観察③

【授業観察】

2学期には直接授業を参観し、児童・生徒等の成長や変容について情報共有を図りました。

【指導内容の検討】

放課後等の時間を活用し、指導場面の動画を視聴し、児童・生徒等の変容を共有しました。相談内容や助言内容を授業改善支援シートにまとめておくことで、効率的に指導内容について検討を行うことや協議内容を記録として残すことができました。

【指導の振り返りと次年度への引継ぎ】

児童・生徒等の変容について、実際に用いた教材を確認しながら情報を共有しました。児童・生徒等の変容を受けて、次のステップに向けた指導内容・方法も検討しました。

ポイント

事例の内容についてメールのやりとり等を行う際は、校内規定に基づき、取扱いに注意しましょう。

複数の障害種の専門性を生

併置校の教育部門間や異なる障害種の特別支援学校間での連携を図り、児童・生徒等の指導切に把握するとともに、指導目標の達成に向けた指導内容・方法を検討・共有することが重要善シート」という)を活用して、効果的に情報共有を図り、多角的な視点から指導の充実を図

複数の障害種の専門性を生かした指導改善シート

【記入例】知的障害教育部門に在籍する視覚障害を併せ有する生徒

項目	観点・内容
① 実態把握	運動機能 <input type="checkbox"/> 利き手の確認 (右利き) <input type="checkbox"/> 目の使い方 (左目優位) <input type="checkbox"/> 手首、腕の使い方 (右腕の可動域が狭い) <input type="checkbox"/> 指の使い方 (微細な運動が苦手である) <input type="checkbox"/> 姿勢の様子 (姿勢の保持が難しい) <input type="checkbox"/> その他 (教員や友達の動きに興味がある)
	<input type="checkbox"/> 聞こえ方、見え方 <input type="checkbox"/> 聴力 dB <input type="checkbox"/> 視力 0.04 (0.08) 0.04 (0.07) <input type="checkbox"/> 使用している補助具等 (眼鏡)
	<input type="checkbox"/> アセスメントの実施 (有・無) アセスメント名 (○○○○) アセスメント結果 (△△△)
	<input type="checkbox"/> コミュニケーションツール ・ 視覚支援を用いた音声言語
	<input type="checkbox"/> 学習や認知の様子 ・ 集中が続かず、焦点が定まらないことが多い。天井や床を見て、いすを揺らすなどの感覚遊びが多く見られる。
	<input type="checkbox"/> 自立活動の内容と関連付けた課題 ・ 斜視があるが、眼球運動を少しずつ滑らかにしていくことができれば、視覚と手の運動を協調させることができる。 (環)-(1)
② 指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 注目すべきポイントに焦点を合わせ、注視できるようになる。 ・ 注視したポイントへ正確に手を伸ばせるようになる。 ・ 眼球を動かした追視行為ができるようになる。

運動機能や視力、聴力、補助具など複数の障害を併せ有する児童・生徒等の実態把握に必要な内容を記載する。

客観的なアセスメントを実施している場合はアセスメントの種類と結果を記載する。

行動観察から得られる情報を記載する。

自立活動の内容と関連付けて、対象児童・生徒等の課題を整理する。
(項目の番号を記載する。)

かした指導改善シートの活用

内容・方法を充実させるためには、それぞれの障害種の視点から当該児童・生徒等の実態を適です。本事業で開発した「複数の障害種の専門性を生かした指導改善シート」（以下、「指導改りましょう」。

③指導目標を達成するために解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none">・ 一日の学校生活の中のどの場面で指導していくか。・ 必要な環境、教材をどのように整えるか。・ 多くの教員が指導できるように、どのように周知・研修を行っていくか。
④学習上の課題の改善に向けた手だて
<ul style="list-style-type: none">・ 児童が見やすい位置（高さ、距離、角度など）に配慮し、視覚支援や教材を提示する。・ 教材等が見やすいように環境を整える。・ 「よく見たね」などの即時評価をするようにする。
⑤指導した内容
<ul style="list-style-type: none">・ 机に濃い色の滑り止めシートを敷き、見やすい環境を整え、プットイン*、棒差しの教材を活用した。（国語・算数）・ 着替えや荷物整理の際に、靴下のゴムや衣服を入れるかごのふちが見やすいように印を付ける。（日常生活の指導）
⑥児童・生徒の変容
<ul style="list-style-type: none">・ プットインや棒差しの課題で、手元を見る姿が多くみられるようになった。・ 着替えや荷物整理をする際に手元を見て行うことが増えてきた。・ 手を動かす前に目で見て確かめるようになってきた。教員と目が合うことが増えてきた。・ 左右の眼球運動が滑らかに行えるようになってきた。上下の動きは今後の課題である。

指導目標の達成に向けて、課題となる点（助言を求める内容）を記載する。

障害の専門性を生かした助言内容を記載する。

助言を受けて、指導した内容を記載する。

児童・生徒等の変容を記載する。課題等も記載し、次の指導へつなげる。

ポイント

児童・生徒等の実態を的確にとらえるために、客観的なアセスメントとともに、学習場面や生活場面もよく観察し、丁寧に実態を把握することが大切です。

* プットイン：ふたに穴が開いている容器などに物を入れる教材。